

科目名	サーバーコマンド						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 2年						
授業概要	Linux(CentOS)の基礎的な使い方を説明する。 操作に必要なコマンドを理解し、基本的な操作ができるように演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					Linuxの特徴を理解し、説明できる。	
		○				基本的なコマンドを使った操作ができる。	
テキスト・教材 参考図書	・新しいLinuxの教科書 (SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Linux(CentOS)環境構築 インストールからログイン、ログアウト、シャットダウン			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	シェルとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 環境構築未完了の場合、完了させておくこと		
	3	ファイルとディレクトリ 基本的なファイル操作			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	アーカイブと圧縮			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	テキストエディタ(Vim)の使い方			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	bashの設定パーミッション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	プロセスとジョブ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	標準入出力とパイプライン			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	テキスト処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	正規表現			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	高度なテキスト処理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	シェルスクリプトとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	シェルスクリプト演習①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	シェルスクリプト演習②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	シェルスクリプト演習③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席率を点数化し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	課題・レポート	○	◎				20%
	出席状況・態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	情報処理試験秋期対策ⅡB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	志水、打越、西野、久家、村上、柴内、木村(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験春期対策ⅡB						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	姫野、志水、村上、久保山、藤澤(予定)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科・電子システム工学科・ネットワークセキュリティ科 2年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	出席状況・授業態度				◎		40%
履修上の注意							

科目名	プログラミング演習ⅡB						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	藤澤 昌聡		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 2年						
授業概要	教科書ベースで講義、演習を行い、Javaの単体テストが行える技術習得を目指す。プログラム上にあるバグを発見し、適切に動作する様、バグ改修を行えることを目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					Javaプログラミングにおいて、正しいテスト手法においてテストが行える	
	○					デバッグの方法を習得し、プログラムの問題箇所を特定できる	
	○					問題箇所を改修し、正しく動作していることをテストで確認できる	
テキスト・教材 参考図書	JUnit実践入門 ~体系的に学ぶユニットテストの技法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Javaの単体テスト					
	2	JUnitを使った単体テスト 入門			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	アサーション			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	テストランナー			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	テストのコンテキスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	テストフィクスチャ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	パラメータ化テスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	カテゴリ化テスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	デバッグ演習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	デバッグ演習・バグ修正1			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	デバッグ演習・バグ修正2			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	Androidテスト①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	Androidテスト②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	Androidテスト③			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	復習/期末試験対策						
評価方法	(1)各章での演習課題提出(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	課題提出		◎		○		30%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	Webアプリケーション開発演習B						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	藤澤 昌聡		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報工学科 2年						
授業概要	教科書ベースで講義、演習を行い、PHPフレームワークを活用したWebアプリケーション開発能力修得を目指す。演習を通じ、技術の理解を深め、知識の定着を図る。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				LaravelによるWebアプリケーション開発環境を構築することができる	
		○				MVCモデルに準拠したWebアプリケーションを開発することができる	
テキスト・教材 参考図書	PHPフレームワーク Laravel入門(秀和システム)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~5	フレームワークとMVC構成/コントローラー					
	6~10	コントローラーとビュー			環境構築未完了の場合、完了させておくこと		
	11~15	ミドルウェアを利用したリクエスト・レスポンス処理・バリデーション					
	16~20	データベースとモデル(クエリビルダ、マイグレーションとシーディング)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21~25	データベースを使いこなす(EloquentORM、モデルのリレーション)					
	25~30	リソースコントローラとRESTful、セッション管理、ユニットテスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	31~35	総合演習①					
	35~40	総合演習②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	41~45	総合演習③					
	46~50	総合演習④			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	51~55	総合演習⑤					
	56~60	総合演習⑥					
	61~65	総合演習⑦					
66~70	総合演習⑧						
71~75	復習/期末試験対策						
評価方法	(1)各章での演習課題提出(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	課題提出		◎		○		30%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	モバイルアプリケーション開発演習 I						
科目名(英)							
単位数	8単位	時間数	120時間	担当者	久家 政人		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	コンピュータ関係会社において システムエンジニアとして勤務		
対象学科・学年	情報工学科2年						
授業概要	AndroidOSのネイティブ言語であるJava言語を拡張したKotlinと公式開発環境であるAndroidStudioを用い、モバイルアプリケーション開発の基礎知識と実践法を習得する。実際の開発を進めながら教科書の重要となるポイントを詳細に解説し、知識の定着化を図る。オリジナルのアプリケーションを開発し、応用力を身に付ける。						
授業形式	講義: Δ	演習: \circ	実習:	実技:	※ 主たる方法: \circ その他: Δ		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	\circ	\circ				スマートフォンアプリケーションの開発環境構築ができるようになる	
		\circ				基礎的な機能を使ったAndroidアプリケーションの開発ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	はじめてのAndroidプログラミング第3版 (SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~4	開発環境準備、Android Studioの使用方法					
	5~8	初めてのアプリ作成、Githubと連携してソースを共有				Githubアカウントを取得しておくこと	
	9~12	Kotlinについて学ぶ					
	13~16	Kotlinについて学ぶ					
	17~20	Kotlinについて学ぶ					
	21~24	じゃんけんアプリ作成					
	25~28	体型記録アプリを作ろう					
	29~32	加速度センサーで玉ころがしアプリを作ろう					
	33~36	音の出るスライドショーアプリを作ろう					
	37~40	カウントダウンタイマーを作ろう					
	41~44	洋食屋のメニューアプリを作ろう					
	45~48	目覚まし時計を作ろう					
	49~52	スケジューラアプリを作ろう					
	53~56	総合演習					
57~60	総合演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを適宜実施する。(3)出席回数を評価し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	\circ	\odot				60%
	課題・レポート	\circ	\circ		\odot		20%
	出席状況・授業態度				\odot		20%
履修上の注意	パソコン持参のこと。課題・レポートについては、期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	一般教養 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 2年						
授業概要	<p>ニュースを通して、時事に関心を持てるように、以下の項目を行う。</p> <p>① ニュースサイト記事を利用し、時事情報に関心を持ち、背景を含め内容理解ができるようする。</p> <p>② 毎日、時事情報を読み、概要記述を行う。</p> <p>③ テキストの内容を確認し、新聞などで現時点での世の中での状況を確認し、その項目の概要を把握をす</p>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					時事情報に関心を持ち、背景を含め内容を説明できる。	
		○				時事情報を読み、概要記述ができる。	
		○				テキストの内容を確認し、世の中での出来事の概要を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	・朝日新聞 朝日キーワード就職2021(朝日新聞出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	政治分野の基礎問題(1)					
	2	経済分野の基礎問題(2)					
	3	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(1)					
	4	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(2)					
	5	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(3)					
	6	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(4)					
	7	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(5)					
	8	確認テスト(経済分野及び政治分野の基礎問題) ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(6)					
	9	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(7) 小テスト(政治・経済分野)				小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	10	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(8) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認				小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	11	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(9) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認				小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	12	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(10) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認				小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	13	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(11) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認				小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
	14	ニュースサイト記事を読み、要約レポートを作成する(12) 小テスト(政治・経済分野)、テキストの内容確認				小テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。	
15	確認テスト(テキストの内容確認) ⇒ テキスト持ち込みで実施する				確認テストの見直しを行い、間違い箇所の復習を行うこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テスト、課題・レポートを適宜実施する。(3)出席率を点数化し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				40%
	小テスト	◎	○				20%
	課題・レポート	○	◎				20%
	出席状況・態度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ビジネスコミュニケーション I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	情報工学科 2年						
授業概要	ビジネスコミュニケーションの基礎知識を習得し、論理的な思考表現を段階的に身につける。 ①主体的に考え、行動することができる。 ②論理的な思考表現が出来るようになる。 ③人前で堂々と話をする事、人の話を最後まで聞くことができるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ビジネスコミュニケーションの基本手法を説明できる。	
		○	○			人前で堂々と話をする事、人の話を最後まで聞くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・ビジネス・コミュニケーション (株式会社ファーストプレス)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 効果的なコミュニケーションの要素(明快さ・一貫性)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	第1章 (前後関係・礼儀)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	第1章 (確認・簡潔性)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	第1章 (論理的な構成・衝突の回避)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	ビジネスコミュニケーション☆クイズ					
	6	第2章 一般的なコミュニケーションのタイプ(効果的な質問・説得力のある主張)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	第2章 (要求/指示をする・情報の伝達)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	第2章 (ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	第2章 (問題解決・非言語コミュニケーション)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	ビジネスコミュニケーション☆クイズ					
	11	第3章 特殊な状況下でのコミュニケーション(ビジネスメール・ミーティング)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	第3章 (ブレインストーミング・インタビューを受ける)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	第3章 (インタビューをする・交渉)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	第3章 (プレゼンテーション・危機管理)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	ビジネスコミュニケーション☆クイズ						
評価方法	(1)課題・レポートを適宜実施する。(2)授業内のグループワークへの取り組み姿勢を評価する。(3)出席率を点数化し、授業態度の注意が多い学生に対しては減点評価をおこなう。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	◎	○				50%
	授業への取り組み姿勢		○	○	○		30%
	出席状況				◎		20%
履修上の注意							